

臨床心理学研究

[研究] 第1・2学年 選択 2単位

《担当者名》冨家 直明

【概要】

臨床心理学の主要なセラピーである認知行動療法の過去の理論や重要な文献を整理し、プロセスベースな心理療法としての捉え直しを試みるとともに、遠隔支援技術やAI等の科学技術の援用や法律、行政制度、経済的、人的コストなどの複合的な視点を加えた未来の心理支援のあり方を討議する。

【学修目標】

行動療法、認知療法、マインドフルネス、アクセプタンス、応用行動分析等、これまでの認知行動療法の各技法や理論等をそれぞれの歴史を踏まえて概観、整理する。

上述の知見に新しい科学技術や社会制度の特徴を反映させ、統合した新しい世代の心理療法を考究する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	History and Current Status of CBT Philosophy, Science, Law, & Economics in CBT	・エビデンスベースセラピーとして発展してきた認知行動療法の歴史と主要理論を振り返る。 ・心理療法や臨床心理学の社会的実践における功罪について、科学論、哲学や倫理、法律や行政制度、社会経済の観点から振り返り、整理する。	冨家 直明
2	Information Technology and Changing Role of Practice	認知行動療法が用いるまたは開発してきた心理測定や変容技法に関する変容テクノロジーを抽出し、その成り立ちと応用方法を考える。	冨家 直明
3	CBT with AI	人工知能(AI)を活用した認知行動療法の可能性について考える。	冨家 直明
4	Core Behavioral Processes	行動とは何かについて、そのプロセスを社会的文脈、環境的要因に即して再考する。	冨家 直明
5	Emotions and Emotional Regulation	感情制御の理論や技法、神経科学的基盤について最新の情報を整理する。	冨家 直明
6	Contingency Management(CM)と Stimulus Control (SC)	CMとSCの理論の概観、ベーシックコンポーネントの整理、ケーススタディの例題を呈示する。	冨家 直明
7	Shaping	Shapingの理論的バックグラウンド、技法の詳細、応用の可能性について考える。	冨家 直明
8	Self-Management	Self-Managementの理論や歴史、行動をマネージする技法の概観、アセスメント方法、オペラント行動の変容方法、感情行動の変容方法について考える。	冨家 直明
9	Arousal Reduction	ARの理論や歴史、各種感情障害との関係、呼吸法、PMR、応用リラクゼーション、マインドフルネス、ビジュアルイゼーション、自律訓練などの整理比較。	冨家 直明
10	Coping & Emotion Regulation	ストレス対処における情動制御の理論の概観。再評価とアクセプタンス。文脈の役割の認識。	冨家 直明
11	Exposure Strategies	Exposure Strategiesの理論と歴史の概観。Exposure法のタイプとその実際。	冨家 直明
12	Behavioral Activation	BAの理論と歴史。テクニックとプロセス。応用方法についての考察。	冨家 直明
13	Enhancing Motivation	MIのプロセスと原則。経験的サポートに関する文献の紹介。活用できるツールの紹介。	冨家 直明
14	Future Directions in CBT	統合的CBTの行方と社会実装に関する議題、もしくは心理実践家の社会的実践のあり方に関する討議。	冨家 直明
15	Clinical Forecasting Using Bayesian Statistics	ベイズ統計を用いた臨床予測に関する討議。	冨家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

Process-Based CBT Hayes, S.C. & Hofmann, S.G. Context Press
研究に役立つJASPによるデータ分析 頻度論的統計とベイズ統計を用いて
たのしいベイズモデリング2事例で切り拓く研究のフロンティア
実践的メタ分析入門
心理療法統合の手引き

【備考】

オンライン、オンデマンドを積極的に活用しながら進める。

【学修の準備】

【学修の準備・事後学修】（合計240分） 本科目は2単位科目であり、1回につき4時間の授業時間外学習が必要です。生成AI（Gemini等）を「専属の家庭教師」として活用し、以下のサイクルを推奨します。

1. 予習（約90分）： テキストや参考資料を読む。生成AIを活用して講義テーマの「社会的背景」や「関連キーワード」を調査し、自分なりの「問い」を立てる。
2. 事後学修（約150分）： テキストや参考資料を読むほか、図書館を活用して広く参考文献にあたる。講義内容をAIに要約させる。AIに「理解度確認クイズ」を作成させて回答し、間違えた箇所をさらにAIと議論して解消する。TA・教員への質問をしたり意見交換をすることも推奨します。

なお、学修活動の証明として、AIとの対話ログ（履歴）や、AIの回答を元に作成した独自の学習ノートの提出を求めたり、感想を聞くことがあります。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、

DP2. 心理学領域において自立した研究者として必要な研究能力を有している。

DP3. 先端的な専門知識および技能を修得し、学術研究を開拓的に前進させる能力を有している。

という臨床心理学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師、臨床心理士としての臨床経験を活かした講義を行う。